

## 変革と対応

Y君

日頃は無沙汰しておりますが、お変わりありませんか。先日は久しぶりにお手紙をいただき、嬉しく存じます。そして最近の内外の世相に対する貴君の苦悩にいたく心をうたれております。

Y君

何とかもつと平和で静かな世の中にならないものか、もつと暮らし易い住みよい世の中にならないものかと、嘆息しているのは貴君ばかりではないと思います。しかし、これがあるがままの世界で、他にわれわれの住む世界はないのであります。もともと世界は、われわれを満足させるようには構成されていないようです。世界はわれわれに特に好意をもつていないが、特に悪意をもっているわけでもないと思います。問題はわれわれが、こ

の世界をどう受け止め、世界にどう対応するかということであるうかと思えます。永い人類の歴史を通して、われわれの先人は、いつの時代においても苦悩と苦闘を重ねてきたのです。何度も何度も、その改革を試みては失敗してきたのです。たまたに改革ができたと思つて喜んだ瞬間、また新たな苦悩ができ、みんなが幻滅に泣いたのです。われわれは、いつもこういう苦悩の深淵に生きていたし、今後も、それから脱却することはできないと観念するより他に道はないようです。

Y君

そうだとすれば、一体、われわれはどうすればよいのでしょうか。それは、これまで人間が、感じたり経験してきた苦悩であります。この状態をどのように受け止め、それを一歩一歩、どういう方法で踏み越えるかということが問題になります。そこで私は、一人の先輩として、若干の手がかりを返信したいと存じます。これは、とりも直さず、貴君と一緒に時代の苦悩を考えて行くこととする私自身の心構えでもあるのです。

一、先ず昔はよい時代であったが、今はそうでないと断定することは誤りであると思います。よくよく調べてみると、人間の歴史には、いつの時代をとってみても、今日と較べてひどくよかったという時代はなかったようです。いつの時代においても、憎悪と争いは信頼と平和より強かったし、生活の愉しみは、その苦しみより乏しかったようです。だから今日だけが悪い時代であると、一概に決めてかからないことが肝心であると思います。

二、次に争いや苦しみには、その因って来る原因があるはずで、争いや苦しみを嫌悪することは当然であるが、その中で不平を並べることだけではどうにもならないということです。先ずわれわれは冷静かつ克明に、その原因を究明することから、始めなければなりません。そうしないと、改善への手がかりを掴むことができないばかりか、下手をすると事態は現状より更に悪くなりかねないと思うからです。

三、ところが、われわれは性急のあまり、一挙によりよい状態を求めて、それが達成できないと悲憤慷慨し、場合によっては自暴自棄になりかねないのです。それは賢明な生き方ではないと思います。先ずわれわれは、現在に不満であっても、現在より悪い状態があり得ることも考えておかねばならないと思います。現在より事態を悪くしないためには、ど

うすればよいかを考える方が真面目な生き方であり、そのために先ず努力することが大切であると考えます。

四、そうした用意をしておいて、次によりよい状態を構想し、それに達するための手段を選択・按配するのが順序であると思います。その場合、注意しなければならぬことは、いかなる手段にも必ずプラスとマイナスが伴うもので、絶対的にプラスである手段などというものは無いということです。現実には、よりプラスの多い、よりマイナスの少ない手段を工夫することであると思います。革命というものはプラスばかりを期待すればこそ、青年の心を奮い立たせるものですが、その結果は、プラスより、むしろマイナスが多かったことを、歴史は教えていると思います。

五、しかし、何事をするにせよ、貴君が他を責める前に先ず家庭のこと、友人のこと、地域社会のこと、国家のこと、つまり自分より他者のことを、先ず頭において考えたり行動したりすることが大切です。人の本当の喜びは、他者を責めることにあるのではなく、他者のために何を奉仕するかにあると思います。この世の中の改良と進歩は、一人一人が、先ず他者にどれだけだけの貢献をするかにかかっております。立派な乳牛も、乳をしぼりたら

れる許りでは貧血してしまいます。この乳牛に栄養を与えることが先ず大切であります。私はここで、「乳牛」と象徴的にいいましたが、これが貴君にとつては国であり、地域社会であり、会社や組合や銀行であり、友人であり、家庭であります。そういうものを乳牛におきかえることによつて、貴君の行動の指標が出てまいれると思ひます。なお一層考えようではありませんか。人生は汲めども尽きぬ深い泉であるからです。

(昭和四三・三・一一)